

重点施策1 特色ある学校づくりと教職員の資質・能力の向上

【施策方針】

- 学校の教育目標の明確化と学校評価システムの改善
- ブロック別研究推進体制等を生かした幼（保）・小・中の交流と連携の推進
- 「三層の情報環流方式」*による情報共有と家庭・地域社会の教育力を活用した児童生徒の健全育成
- 校内研修の充実と人間的魅力に富む教職員の育成

【実施状況】

（1）主な施策・事業

- ① 活力と潤いに満ちた特色ある学校づくり
- ② 幼（保）・小・中の効果的な連携
- ③ 家庭・地域社会との連携
- ④ 現職教育の充実

（2）施策・事業の実施状況

① 活力と潤いに満ちた特色ある学校づくり

教育計画に明確な教育目標を掲げ、具体的な方策により特色ある学校づくりに努めた。年2回の学校訪問及び学校視察を通して、その達成状況を確認し、教職員とともに成果と課題を確認した。

また、学校組織マネジメントの視点に立った学校経営と目標管理制度を導入した経営の在り方について助言を行った。さらに、各学校の自己評価や学校関係者評価を通して、特色ある実践について検証し、評価の報告を求めた。その際、学校の取組が適切に評価されるよう、評価項目の見直しを含めた改善を図ることや、自校の目標管理制度の実践と相応した評価となるよう助言した。

② 幼（保）・小・中の効果的な連携

愛宕、八代、松柏、保内の4ブロック体制でブロック別研究会を開催し、9年間を見通し、小中連携を研究推進の中核として、コロナ下においても様々な工夫を凝らし、学力向上対策や体験活動の充実に積極的に取り組んだ。

また、各ブロックで地域の特性や児童生徒の実態に応じ、特色ある地域活動を展開し、地域と一体となった健全育成に取り組んだ。

③ 家庭・地域社会との連携

三層の情報環流方式による情報共有を基盤とし、いじめや非行の早期発見に努めるとともに、各ブロックにおける生徒指導上の諸問題について共通理解し、健全育成の充実に向けた協働体制の確立に努めた。

また、体験活動においては、各ブロック単位で、「浜っ子人材銀行」（生涯学習課発行）を参考にして地域の人材を積極的に活用した取組を行った。学校と家庭・地域社会との連携については、どの学校も会合や校報、HP等による情報発信を積極的に行い、更なる連携の強化につながる取組ができた。

④ 現職教育の充実

各学校では、現職教育計画に基づき、学校不適応の解消・未然防止、授業力向上のための教科研修や、特別支援教育の視点を基盤とした生徒指導力向上を目指した事例研修や理論研修及び教職員の服務規律の確立のための研修等、様々な研修を年間通して実施した。特にGIGAスクール構想に伴うICT研修では、ICT支援員を配置し、授業におけるICTの効果的活用方法に関する理解を深めるとともに、校内研修において、ICT支援員を研修のコーディネーターとして実施するなど活用が進んでいる。教育委員会は、研修主任会等でこの計画の実施状況について確認し指導した。

また、2年間のコロナ下での経験を踏まえ、市教研教科部会や教科外部会について工夫を凝らし実施した。職務別研修は定期的実施し、教職員の資質・能力の向上について共通理解を図った。

校務支援システムについては、小・中学校の通信簿・指導要録の電子化も11年目となり、教職員のリテラシーも向上している。ICTの活用は、教職員の業務改善（働き方改革）にもつながっている。

GIGAスクール構想に伴い整備したクラウド環境を利用し、始業日や終業日の出欠状況及び感染症の発生や非常変災時の対応に係る報告業務の省力化、職員会議でのペーパーレス化、オンラインによる事務的な打合せ等の業務改善に成果を上げている。

*三層の情報環流方式

各学校、ブロック（中学校区）、市の三つのいじめ対策委員会が、相互に連携を図りながら、情報交換を積み上げ、協働して課題解決を図る本市独自の取組

【事務事業点検評価委員意見】

- 令和4年度の施策・事業の実施状況を拝見し、新型コロナウイルス感染症の発生から今年の5月に第5類へと移行する中、多岐にわたる多くの課題に対して積極的に取り組み、改善されている点、そして事業目標達成に対して大きな後れを出していない点について、高い評価と感謝を申し上げる。また、更なる向上に向けて、達成が十分でない施策・事業に対して何が大きな原因になったかなどの分析を抽出していただけると、今後の取組につなげていけるのではないかと考える。
- 令和4年度は、八幡浜市教育委員会はもちろん、各学校や関係機関において、コロナ下で様々な活動が復活した年であったと思われる。この3年間での中止や自粛が少しずつ解け、今まで行われてきた諸活動や、新たに始めた施策などが行われた。これらを体験することで子どもたちは満足感や達成感を得ることができ、それが子どもたちの自尊感情を高めることにつながっていると捉える。一方で活動自粛中に卒業した児童生徒の学校生活で経験できなかったことが、今後の生活に支障をきたすことがないことを切に願う。むしろコロナ下で学んだことを生かしてもらいたいと思う。今後も、児童生徒の成長に欠かせない様々な体験や活動が円滑に行われるよう、必要な感染症対策の徹底は継続しつつ、地域や学校の状況を踏まえ、施策・事業を進めていっていただきたい。
- 本市教育活動の土台となる4ブロックの研究部会ごとに、ブロックの実態に応じた無理の

ない持続可能な研究が進められている。ブロックごとに小・中の授業交流を実施し、小から中への円滑な移行を行うために配慮すべき事項等について共通理解を図り、中1ギャップの解消に成果を上げている。各ブロックが密接な情報交換や連携した教育活動を進めることで、小・小、小・中の連携にとどまらず、家庭や地域と連携した教育活動の更なる充実を図ることができている。今後も、これまでの特色ある取組を継承しながら無理なく連携し、継続して取り組むことのできる方法を模索していただきたい。

- 教育委員会主導で、市教育研究大会を始め、教科部会、教科外部会、ブロック別研究部会が開催されている。それぞれの部会で、研究授業や授業研究、研究発表等を行い、具体的な指導力の向上につながるよう研修の充実が図られており、若年教職員の授業力向上に貢献している。教科部会、教科外部会の持ち方については、研修の効果を高めるための見直しを行い、授業研究時には、タブレットを持参し、意見を共有するソフトウェアを使った協議を取り入れるなど、研究の方向性を共有する工夫が行われている。小・中合同部会の実施も定着してきており、交流や情報交換を行うことで相互理解が進んでいる。本市研究の看板である小・小、小・中の連携を更に進める絶好の機会となっている。
- 教育委員会指導の下、各校で教職員のICTスキル向上に向けた研修が進捗しており、一人一台端末を「主体的・対話的で深い学び」を実現させていくツールとしての活用を大きく前進させている。また、各学校に配置されたICT支援員が、「授業支援」「機器やネットワークなどの環境支援」「校内研修支援」など多岐にわたってICTの活用をサポートし、デジタル機器のトラブル対応のみならず、児童生徒と教職員のスキルアップを図る体制も充実させている。今後も、整備されたICT環境を最大限有効活用するために教職員の研修を充実させ、学校教育のスタンダードとしての新たな学びのスタイルを築いていただきたい。
- 愛媛県教育委員会や愛媛県総合教育センターが実施する各種研修会等へ積極的に参加することにより、教職員の資質・能力と指導力の向上が図られている。第51回市教育研究大会では、子どもの心身の医療にかかわるたくさんの資格を有し、医療や教育に関する経験が豊富な講師を招聘し、電子メディアが子どもに及ぼす様々な影響と適切な使い方等についてご教授いただいた。学校が家庭や地域と連携しながら、どのように教育活動を行えばよいか理解を深めることができた。また、総合教育センターや南予教育事務所が学校の教育活動を支援するための取組として実施している「出前講座」を、校内研修や教科部会等で積極的に活用し、資質・能力の向上に努めている。

【自己評価】

- 令和4年度の取組について、新型コロナウイルス感染症の影響を受けつつも、多岐にわたる課題に積極的に取り組んだ点や、コロナ下での活動の復活が子どもたちに満足感や達成感をもたらしたり、自尊感情を高めたりしていることにつながっている点で高い評価をいただいた。今後もコロナ下で学んだ経験を生かす取り組みを推進し、児童生徒の成長をサポートしていきたい。
- ブロック別の研究部会が無理のない持続可能な研究を進め、小・中の連携と家庭・地域との連携を強化した点を評価していただいた。ブロックの範囲が広範囲になってきているため、連携の方法を改善し、継続して取り組む方策を模索していく。

～ 1 特色ある学校づくりと教職員の資質・能力の向上 ～

- 教育研究活動の充実と指導力向上に寄与している点も評価していただいた。I C Tの活用を更に推進し、新たな学びのスタイルを確立する取組を強化していく。
- 教職員の資質・能力向上への取組や、各種研修会への積極的な参加が有益である点も評価していただいた。教育研究の継続とともに、質の向上にも努めていきたい。
- 今後も改善と向上を図り、子どもたちの教育に貢献していく決意である。引き続き、地域との連携を強化し、質の高い教育環境を提供していきたい。